



かけはし

五條小学校通信

2013年7月10日

第6号

夢に羽ばたけ

～笹竹に結ぶ短冊に願いを～



♪ 笹の葉 さらさら 軒端にゆれる お星さま
きらきら 金銀砂子
五色の 短冊 わたし書いた お星さま
きらきら 空から見てる ♪

7月3日、水曜日、多くの保護者や地域の方々をお迎えして、七夕の集いが楽しく開かれました。

10時35分、竹飾りと短冊を持って、児童が入場。たくさんの方々に迎えられた子どもたちは、一瞬、びっくりしたのか、足が止まりました。しかし、6年生のリーダーたちの呼び声のおかげで全員自分の色の場所へ行くことができました。

児童会代表の挨拶の後、裸の笹竹をみんなで飾っていきました。「うちゅうひこうしになりたい」「かんごしになってびょうきの人たちをたすけたい」など、子どもたちの夢や願いが垂れ下がった枝にいっぱい結ばれました。

赤組の笹のてっぺんに「家族みんなが幸せにぐらせますように」と書かれた短冊を見つけました。几帳面な文字からして、おそらく誰かのお母さんか、おばあさんが書いてくれたものでしょう。「おばあちゃん、いつもおこづかいをありがとう。またよろしくおねがいします」というちゃっかりした短冊も交じり、思わず吹き出してしまいました。

最後に、全員で「七夕の歌」を歌い、笑顔輝くにぎやかなひとときをしめくくりました。

そして、終了後、児童会の運営委員のみなさんが、星に願いがじゅうぶん届くように、8つの笹竹を体育館横に移してくれたようです。

ここまでは予定通り、しかし、その日の夕刻、あの突然の嵐です。大雨と暴風が大切な短冊を吹き飛ばして行ってしまい、せつかくの七夕飾りが無惨な姿で残っています。

空からお星さまに見てもらおう前に短冊がなくなってしまうとは…。これはいったいどうしたことでしょう。お星さまに尋ねたら、なんと言うのでしょうか。子どもたちに聞いてみたところ、こんなことを発言した子がいます。

「自分はひとつも努力せんと、『お願いします。』

だけではあかんでえ～というと思います。」

「なるほど、自分はこれだけがんばります。どうか見ていてください。こうでないと、お星さまは、自分たちの願いを聞いてくれへん。そういうことかな？」

と問い返すと、その子は大きくうなずきました。

まさに「雨降って地固まる」七夕の集いになりました。



